

ほぼそりした関心のもとに、この共通課題が設定されたようと思う。さらに、この共通課題の討論をすすめてゆくに当つては、単なる抽象的な議論に終ることなく、具体的な現実の問題とかかわって、その解明に有効な方法を検討することが強調され、討論のすすめかたについて、二つの段階をとることが提案され（第一八回大会・報告要旨一一頁）、ほぼその方式をとることになった。

すなわち、（A）現在の村落を把握する上で重要なポイントとなる諸点をとり出し、それらの重要な問題点を明らかにしてゆくには、いかなる方法が有効であるか、という点について議論をすすめる。（B）上記の議論で問題となつた研究方法について、各自がそれぞれのフィールドにおいて実証的な検討を行い、その結果をもちよつてさらに検討を加える、ということである。

1. 共通課題「村落社会研究の方法」 (第二年度) の討論における本年大会への 期待

司会 福武直
柿崎京博
余田博
期待

共通課題「村落社会研究の方法」は、昨年の第一八回大会にひきつづき二年目をむかえたこととなつた。激しい変動の渦中にあってさまざまな問題を提起している現実の村落の解明にあたつては、もはや従来の村落研究の方法では不可能なのではないか。少くともその有効性とその限界について明確にすることが必要であるといふ、

しかし、その反面、ややもすれば論点が散漫的となり、加えて肝心の基本的なタームについての相互の理解があいまいであつたことも加わつて、討論は必ずしも当初に期待した方向に進展したわけでもなかつた。

そこで本年度の大会では、前回の以上のような討論を反省し、前に問題となつたいくつかの論点、それに新たな視点をも加えて、

現実の農民生活、村落社会の具体的な分析を行つた実証的研究の事例報告を中心とし、共同討論を重ね、前回の議論を補充し、共通課題の討論を一層進展させ、つきの（B）の段階に移行することが期待される。

その場合、若干、私的な立場からの発言を許してもらうならば、討論に際しては以下のような諸点についてとくに留意しておくことが重要のように思う。

(1) 従来の村落研究の理論・方法では、現代の村落社会の解明がもはや不可能であるという場合、いったいその理論はどのような限界につきあたつたのか。また、それは何故つきたつたのか、といいう点について明らかにしておく必要がある。

(2) この議論をすすめてゆく上からも大切なことは、基本的なタームについて、その概念規定の相互確認を最小限になされることは望まれる。といっても、それ自体大きな問題になることであろうが。

(3) 当面の課題は、村落社会の本質論・原理論そのものを直接の対象とするのではなく、かと云って、単なる調査技術上の方法論でもない。いわばこの村落の「本質・原理」と「現実」の統一的な把握を可能とするようなアプローチの方法ないし視角を重視する、といいう態度を共通の基盤として討論の進展されることが期待される。

（柿崎京一）

（注）本文は、本来なら司会者団の討議を経て記述される筋合いのものであるが、その時間的余裕のないことから、柿崎が、前回の大会、その後の研究会や会員からの提言等を考慮に入れながら、独自の立場で記述したものである。